



小児の溶連菌感染症

大川総合病院 小児科外来

知っておきたい主な知識

1.溶連菌とは、溶血性連鎖球菌といわれ、主にA群溶連菌が扁桃腺・口腔粘膜へ付着して感染を起こします。

2.病態

4-5歳以上の小児で、A群溶連菌感染にともなう『発熱・咽頭痛』が主なものです。

39-40度の発熱が急にみられます。悪寒や咽頭痛を伴い、菌毒素により咽頭・口腔粘膜・手掌・足底が赤インクを塗ったように赤くなります。体幹にも、掻痒を伴う赤い発疹がでます。また、舌には白苔が付き、3-4日後には『イチゴ舌』と呼ばれるように肥大した舌乳頭が目立つようになります。回復期には手指の膜様落屑や体幹に落屑が見られます。

3.注意したい合併症

溶連菌感染の後、3-5週目に急性腎炎やリュウマチ熱を発症することがあります。

4.治療の原則

@急性腎炎などの合併症を併発しないように抗生物質を約10日間、確実に内服して、菌を完全に撲滅させる必要があります。

@発症後3-4週目に検尿を実施しましょう。腎炎を発症していないことを確認します。早朝尿を外来へ持参して下さい。

